悔堂亂稿人名鈔　全

H20
472

〇

悔堂亂稿鈔人名　　悔堂北條退撰

第一巻　耕餘吟巻

〇文政八年乙酉

伊藤ー　「雪日次ーー先生韻」

「人日神邊路上」

「是日廉塾席上同諸君賦」

「桂[illegible]分得韻優」

鈴木ー　「ーー先生、ーー諸君見訪、分得韻元」　圭、君璧、宜山カ

浅川ー　棟軒カ

李亭ー　「伯父ーー翁華誕」〇七絶第四、「壽域

下有同意

鷗外藏書

東京帝國大學圖書印

B 23475

000432832 4

先隣六十春」
「中秋益絹亭集」
「九日」〇五律苐「病裡逢重九」
「十月望、康塾席上
今村 完、緯夫、蓮陂カ
鈴木 師揚
諸君、啻月、分得清字、々限坡賦内、是日
頼山陽翁
来過、故結末及之」〇五律七八「偶有過堂客、曾
来識姓名、」

「黄葉夕陽村舎、同
伊藤健蔵 名古文、字炳文佐子、
大熊文叔 見下
南部安貞
賦、分得韻東」
「同
伊藤
下ミ 竹嶌
諸子、榮谷探梅、分賦彩横斜水清浅句、得疎字」
「歳抄益絹亭集」刪

10 〈加製

「鈴木卓父 師楊カ
伊藤順蔵 名長大、健蔵長丈余、
来訪」
一「鈴木先生及
島田
田上
諸君見訪、分蓮門今始為君開句各賦、得分字」
「松翠亭集」
中上より
「歳杪盆納亭集」

○

文政九年「丙戌元日同
蓑洲兄 河村元監
賦、分得韻東」
「雪日同
阿部遠中
諸子、鶯谷尋梅」
「鈴木
竹島
伊藤
三子来訪」

「同
木卑女（鈴木）
竹有五　竹島氏
訪梅三原、出郭口占」
「絲崎途中」
「梅林」「同上次
叢洲家兄叢洲　河村元監、士郁
舊遊韻」
「三原驛訪
曽根政右衛門」

下有拼
仲、朴
腐集
作荒
氏、題
壺櫻、

「自三原帰尾道舟中」「尾道宿
小川氏」〇七絶芽四「中王唐下故人荘」
「山村郎李、稽古堂詩會課題勒韻」
「三日三朔同
卓女　鈴木氏
諸子遊蘆田川、得天字、字限用蘭亭記中」「同
原田文之進
之荒谷途中二首」
「霞亭先生
忌祭薦賦、情見于辭」〇七古「先生才德冠

時賢、退也曾得侍講筵、何知先生登仙路、
無端客死東武天、夫人携稺帰郷土、寡居
守貧護残命、養退使嗣先生後、意欲先
生業永傳、退元不才百無成、捧持遺書轉
傷情、自鞭駑駘耽誦讀、區々冀不墜家声、
今朝適逢脩忌祭、關山萬里想孤塋、口瓣香昔
日講書處、容顔在目泣縱横」

「恭敏先生
忌祭」〇七絶「春花秋月二十年、復値忌辰思
悵然、白鷺城頭三尺墓、懸知宿草正芊々、」

「訪
島有五」　（竹島氏」

「十七夜
霞亭先生
忌辰」〇七律「毎逢秋半轉凄然、感舊情懐
在目前、人値忌辰年數易、月過佳節影仍
圓、陰蟲唧々秋初老、落木蕭々愁暗牽、回
首孤墳何處所、瞻望萬里海東天、」

「寄題懸壺樓為雲州松江
小川柳仲」　（詩ニヨルニ医ナリ）

「笑」倉井澹次郎五古、「送
鴨井東仲
帰郷分渭城朝雨浥軽塵句為韻、余得浥字」
「採梅」次
韻」 克佐 「題立鷺酒瓢睡鴨瓢杯為備中
門田氏、名重鄰、號朴斎
大熊文叔」〇七古注、「水碧汐明文叔書斎
名」
「文叔」
大熊氏、備中人、見于朴斎集

○
留寓数日臨別賦贈」
文政十年丁亥
「茶山先生
八十寿言」「同
高田理卿
諸子、六谷尋梅」「送
南部元吉
従
赤石退蔵
学医」「讃人

高田理卿
椿堂四十壽詞」（理卿ハ翁ノ次子）
送
高田理卿
秋山西民
二子帰郷」「字
理卿」「同
覚佐
寛夫　添川氏
一蔵

丁谷観螢途中」
「恭敏先生
忌祭」「贈
添川寛夫」〇七律頷聯「摛藻遥追唐李　見下、
杜、談経又慕宋程朱」、「贈
廣瀬吉甫」〇七律「曾識声名称逸群、
偶然何幸此論文、結交遥量容如海、陟遠
行蹤軽似雲、勝遊諸州新所歴、遥談一夜自
堪聞、由来仁友雖非少、未有才鋒鋭似君」
「青木左平

重来」「送
鴨井東仲
之武州」「送
原田文之進
之武州」「書懐贈
昭叔兄」〇七律七八「与君同有箕裘業、
努力須追俱逐古人」「送
山室子彦
名勝、俊、號汲古、称武左衛門、
之江戸、兼寄
鴨井東仲」「贈

原氏采蘋」〇七律一二「曽傳八歳已能
文、此日相逢慚素聞」
〇文政十一年戊子
「送
添川寛夫
名栗、称寛平、號拙堂又廉齋、後仕安中板倉侯、
帰會津」「送
富田直吉
之江戸、直吉此行従奥人添川寛夫帰郷、故
後聯及之」「櫻花、先儒
竹山先生
中井氏

以海棠称之、人或以為不然、」〇絶句三四、竹
翁韋強奠堪恠、枉把花王混海棠」「送
丸川子遷」
「三宅萬年
有來訪之約不果、尋聞合卺、戯有此寄」「小羽
州
島孟兒遷」
来訪賦贈」「送
僑超然
之京師〇七古「藍玉結交正一年」

「次韻文叔
見贈、却贈」「止酒」〇五古「叔性元古飄飖、恐
為病肺人」「九日示
濱子逢」「送
昭叔兄

河村氏

從
山陽頼翁讀書」〇五古「外兄奠英物」
「與
昭叔兄

話別」
天保二年辛卯
在東稿　・「今於故紙中拾収」
「次韻
井口直吉
見贈「次韻
濱子峯
見贈」「送
西原義卿
帰肥前」「送

三浦君倫
帰奥州」「富士、辛卯之秋七月十四日登嶽、宿
中峯石室、明早風雨俄至、至午益甚、飛沙
飄石、連三日不已、十八日差晴、十九日晩快晴、
乃下、」「信州途中」「信山客舎有懐
岡士直
士直肥後人、余在江戸同学三年、今茲各辞
都帰郷、士直自東海、余自東山、相約会京
師」

第二巻　耕餘吟巻

○

天保三年壬辰

「茶山先生

在世、例以十月之望會客、乙酉之歳與今村

今村

鈴木

諸君、作詩飲酒、偶頼山陽翁來過、實一時盛

會也、後三年先生逝、余亦薄遊數年、今

茲壬辰始歸、寂寥冰復旧亦鑄也、慨然書

況」

淺川司憲

○

天保四年癸巳

「送

伊藤文學

拉乃侄

順藏

伊藤氏

之京都」（七古）「昔我本宗曠代傑、仁齋梅

宇先生其次子、來仕我藩實叙先、經年

一百傳世四、阿叔爲侄々警叙、忘必有爲

志鋭然、欲以宗家在京師、就讀乃祖

之遺篇、」

「濱田大夫
岡田某
使其内人寫牡丹、自題団詩寄
菅波維簾
〻〻索詩、」「山居次韻
鈴木行人」「贈
高久郡筆」
「次韻
島田子廣
見贈」

「茶山先生
七田忌祭、志感」
「頼子善」
來訪」
「田向葵伯起
將之江〻、過訪」
「田子廣
藤新平
來訪」
「内藤大夫

（島田）
斎藤氏

招飲「贈
大田卿士栗、士栗江州人、幼年辞家、東自
松前、西至薩摩、環海之内、足跡殆
遍」
「山室卿文學
招飲」「高瀧
高瀧參卿政」
招飲」「訪
山室子彦」「贈
大平公翁、公翁夢三光鳥、與三光石、因爲

○

修史三千巻、名曰三光国史」
「齋藤卿新平
来訪」「哭
士郁兄」
○五律五首「活死人皆仰医兄業、、、遺孤身
河村元監
後亡孤子復亡兄二月卒、、、年甫知嗜詩兄自幼師事蘇山翁」
天保五年甲午
「幽居二嶼、為高野山
古岳庵主」
「子卿廣
島田氏

来訪」

「李亭文人」

七十寿言」〇五古「伯父李亭公翁……己未日

卜吉、維時仲之春……児孫十男子、献椒更献

言……君家於公室、合契七世恩、況君於先公

知遇列親臣、」

「嵩洲老人」

見訪」

「贈小寺覚兵衛」

「敬齋兄、次韻

10（加製

○

昭叔兄、々以此日贈駒児、」（敬齋ハ昭

叔ノ家塾カ）「際叔次韻、

昭叔兄

天保六年乙未「元日次韻

昭叔兄」

「竟卿臣

密卿

来訪」

「内藤大夫

招飲」「讃人

河村氏

有匡十
川敬齋、

十河龔平
索乃父九十壽言」
「山岡士栗
来訪」「嘆
昭叔兄
行藥御領湯野遂上東福院」
「今村
今村郎途次見訪」
「道上村路上」
「佐佐木負次

○

来訪」「哭
敬造弟」
○五古「癸巳哭吾兄、甲午哭吾侄、今年歳乙
河村氏、名重文
未、吾弟亦永訣
滞攝稿
天保七年丙申
「出郷」○七絶第四「九月秋風出故郷」「入大坂」
「瀨川至剛
手製紙帳、讀書其中、小竹翁有詩、次韻」
「雑感三首」○五律第二首第一「客居逢歳杪」

「贈
畏堂先生」○七律一七八「家集今将謀不
朽、遷居僅定更継因」（小竹ナラム）
天保八年丁酉「正月二十日陪
小竹先生
出遊郊外」「医
山本伊立
帰薇山」○七絶二首第二首起）「帰葉三月指
家郷第三四「采薇知汝庭
東仲、

篠崎小竹

鴨井氏

10 高知堂製

為報時時寄數行」
行餘集
天保九年戊戌
「内藤大夫
席上」「公族
前岳州公
七十寿言」
「太平翁
見示近作、次韻却贈」「弔
木村孝安

墓〇七絶茅「詠月吟花五十年」

「甲斐氏

璟青楼「信

高橋氏

日値冬至「松山藩

桑野大夫

七十寿言」

天保十年己亥

上ヨリ

「高麗典客」

栖左仲カ

席上「題

龍伯人

詩稿後」〇五古「其齢未弱冠、其詩何老錬」

天保十一年庚子

上ヨリ

天保十二年辛丑「正月八日

内藤太夫宅集」「太平剣歌、為

茶山門有小早

川小題、

景阪、

小早川翁、翁自號太平翁、々楽々齋、曽

得一竹根、長尺有半、製造擬剣、以列琴書、余

為名太平剣、因作此歌」「楽齋翁隠者也、今

高知堂製

茲春早航遊讃門了、踰月而返、賦此處

贈」「白牡丹、為

香處生、生大阪人」

「老大人

東郭先生　［河村氏元善、称意得、］

七十寿宴、賦此志喜」「季秋赴府中途中」

「上月士毅

招飲」「初冬之府中途中」

「櫻寧園寓居雑詩」　（或ハ悔堂ノ舟カ）

「五弓生　［名久文、字士憲、號雪窓、称豊太郎、］

○

来訪」「木村鶴卿

招飲」「市村氏

所蔵多賀城瓦硯歌」

天保十三年壬寅、

「送

内藤大夫応召之江都」

「福山訪

石川君達」　［名成章、初称淵蔵、次称和助、文兵衛、弾藤陰、後関藤氏、（生ハ白関藤政信）］

僑居、即亡兄士郁讀書之處」
天保十四年癸卯
耕餘吟卷
「栗齋老人
石川君逵
來訪、君逵有詩、次韻」「贈君逵」「訪
森田謙藏、
途上口占、謙藏僑居備中上成村」「贈
謙藏」
「上成有懷故

森田氏

10 高知堂製

拙齋先生」
「贈
鵜井東仲
東仲去年航伊豫、謁
近藤翁」
「歸家途中、君逵師揚約同看梅丁谷」
「答
關翁
見寄、翁新著備字例」「贈
井上翁」

「贈
石川君達」
次韻其近作、「送
鈴木師楊之
江戸三首」〇第三首「毎思千里外、宿草滿
先塋、展拜曠連歳、山川阻遠程、借君一
掃手、佇我終身情、家事還拋託、友朋
如弟兄」「寄
圓々師、
用梟知翁贈師詩韻」

「諸木士慎
東遊、學於
古賀先生、
頃日歸省在郷、賦贈」
「瓮頭瀑布、在山野村布流谷」「山野村歸
途宿
川合氏」
「内藤大夫席上分韻」
「三好綺石
寄自畫山水索詩」「次韻

石川藤陰

贈

岡操堂、

操堂京師人、善鐵筆、携乃内周遊、頃日

来富福山」「癸卯除夜守懐

鈴木師楊、

師楊祇役在江都、憶嘗與師楊遊學、

富都下、餞歳于青柳楼、今已十三年矣」「題

静観堂主人

茶室」

「凝翠軒詩會」

弘化元年甲辰

十七日）

「送

石川君達

藤陰

之江戸邸」「題

節雨師

茶室」

弘化二年乙巳

「題

高知堂製

江木晋戈　號鰐水、名戩、稱繁太郎、
芙蓉杖」
弘化三年丙午
「石川君庭
奉命移居東都、余所蔵銅印、刻勿欺也而
犯之六字、餽以為贐」「送
新居参政
之江戸邸」
弘化四年丁未
十一月

嘉永元年戊申
二年己酉

四年辛亥
「新居典客
見贈盆栽福壽草、賦謝」「題
「江木晋戈詩稿」
「示児
念祖　河村徳太郎、「後新兵衛、號篁峰、
二首」〇五古第一首、汝今年十四、頗能耽講讀」

「守
小早川樂々齋」
守」
江原庱堂
於其画牡丹」「謝
山村子彦
惠菊花」「送
岡本士謙
之肥前」
嘉永五年壬子　千上旬

高知堂製

「菅堂　（悔堂也）
七十誕辰
「菅堂老人」
六十寿言」「尚餘糧石、
玉和医員某氏
於」「禹蹄石、
内蔵大夫
所蔵」
「野崎扶礼田谷本氏
有婦行、事聞、賜銀褒賞、賦此賀之」

「山村子彦
宅賞菊」「故
竹陰居士
小祥忌、女壻
村上度支
招飲吟社、作詩為贐、余會臥病、不得與
焉、贈賦此贈度支」
「寺地士亨
台豐、文東、鉢舟里、蘭方医、
書樓落成、分得樓字」「十二月十二日早起
賞雪、和

下甲

山室士彦」
嘉永六年癸丑
元日
高瀧大夫
招飲」
安政元年甲寅
甲上弓
安政二年乙卯
「高瀧大夫餞余東行」
「高田別墅陪宴恭賦」「賜杯銘、安政二年乙

卯五月廿八日高田別墅陪宴所賜之物」「八月
十四日夜
蕉堂大夫」
「官舎賞月」○五古、注、「席上邀伍
呈谷糖溪翁」
七古、注、「懐
石川君肇」
在蝦夷」「贈
長阪秀夫」（梅塾門人之）
「雪日辞

秀之助、

儀兵衛

文久元年カ

石川藤陰
「擬」「同
關度支
江木教授
「春遊花泉亭」「辞江戸別
森戸右橋」

「采芹餘興
「先君
東郭先生

河村氏

十七年志辰」
「池田源吾
六十壽言」
文久二年壬戌
「今茲壬戌、生母
高橋氏（梅子母）名德
年齢八十、三月十五日賜酒饌之資金二百疋、
供具宴親戚」「大野竹潘
「鄰翁青雲軒九十壽言」
「上山田里正
桑田亀助
恩許稱姓帶雙刀、賦贈」

天保四年癸巳

耕餘集

亡兄士郁墓誌 ○

河村元監、字士郁、號葉洲、福山人、曩祖木工左衛門仕藩、祖止醉別爲家、父東郭嗣職爲内侍醫、元監師事菅茶山、遊京都江戸修方技、年二十二、就藩仕、尋督醫學、天保四年癸巳七月病、十二月二十九日歿、年三十、北條霞亭

10 高知堂製

之歿也、無子、茶山欲養元監為嗣、元監
以為嫡子辞之、余匹嗣小儒氏、元監娶小川
氏、尾道人、父曰仁卿、小川氏天保元年庚
寅七月先歿、年二十三、生二女、長夭、次五
歳、広生男亦夭、皆葬于通安寺、代銘詩、
有肺病知難起、

○

天保十一年庚子八月

「書霞亭先生遺稿後」○「行道山紀行上半
篇存于家、下半篇在従弟甚思手、夫
備後志摩、相去千里、散在両地、殆二十年、
今帰于一處、其事頗有方」

〇天保十四年癸卯十月五日

泰安カ　永安カ

〔菊庵カ　宝カ

「觀楓記」

退吟石川君達、寺地士亨、数士良、遊山野村、觀瀑布、~~觀楓于吉井村天神山~~、宿川合村、觀楓于吉井村天神山、君達姻家内山氏来迎、歴梁瀬村、出于高座驛、帰家、

10
高知堂製

弘化元年甲辰

「不染庵忘年會圖巻跋」

甲辰福山不染庵主催忘年會、鈴木師楊「江木晋戈與焉、石川君達在東都不莅之、退病不莅之、「弘化二年乙巳九月忘機亭主人」

弘化三年丙午三月

書先君東郭先生手寫孝經後

退七八歲時、東郭手寫授之、

弘化三年丙午四月

小松氏墓銘

小松氏、名宋明、福山人、父金室、宋明其第二女也、母井上氏、年十四、為神辺驛菅波維迪字兆卿之繼室、先室

即朱明之姉、生男維濂謙、及二女、
朱明生三子二女、弘化三年丙午四月
二日歿、

弘化四年

○

弘化四年丁未
小野子常墓銘
小野高陳、字子常、稱半六、號確斎、
福山藩士、父高倫、称清右衛門、為小
姓頭、母阿部氏、生三子一女、高陳其長
子也、年十七登仕為供番、尋為廣間
番兼弘道館會議掛、進班給人、弘
化四年丁未十一月十九日病歿、距生文
化四年丁卯十月七日、四十一年矣、配高野

氏、以其年九月廿九日歿、合葬賢忠
寺、生二女、長十三、次六歳、次女為村上
氏所養、

弘化四年丁未
「遁自書孟子語後」
丁未冬参政新御某祇役江戸人

嘉永三年庚戌
「冒榮居士碑銘」
竹山義恭、称吉兵衛、福山人、父當
經、称吉部、母横山氏、義恭其弟二
子、長子分家、義恭襲家、為用達
兼坊長、庚戌十月七日病歿、五十三、葬
一心寺、娶三宅氏、生一子一女、皆夭、
養横山氏子、分家、養松岡氏子義寛
為嗣、又称吉兵衛

菅波信義、神辺亭長、
長坂某、小名所知
儀兵衛
森丘熊三
赫

10 高知堂製